

俱知安町小学校適正配置(案)の比較及び懸念事項の要約

対象：町立小学校（4校）の再編案

第4回 適正配置審議委員会(R8.7.30)での委員意見に基づく検討まとめ

【審議の概要と審議委員会における全体傾向】

児童数の急減や将来推計（各学年90名前後）を踏まえ、当初計画（3校案）の維持が困難となったため、「1校案」と「2校案」を中心に審議を行いました。

審議会では長期安定運営や複数クラス確保（切磋琢磨・教員体制）の観点から「1校案」を推す声が大半を占める一方、リスク分散や丁寧な児童ケア、経営的保険の観点から「2校案」を支持する意見も提示されました。いずれの案においても通学・安心安全や丁寧な合意形成プロセスに関する附帯条件の整理が不可欠とされています。

※下記の記載内容は、令和8年7月30日開催『第4回 俱知安町学校適正配置審議委員会』での議論で出された意見を基に作成したものです。

【1校統合案】小中一貫の可能性を見据えた集約

◆ メリット（主な賛成理由）

- ・複数学級の確実な維持：クラス替えが可能となり、人間関係の固定化防止や社会性・協調性の育成に寄与。
- ・教員体制と教育施策の充実：教員数が多く確保でき、切磋琢磨や新しい教育展開、手厚いフォロー（チーム担任等）が可能。
- ・長期的な財政・運営の安定：中長期での児童減に対し再統合の必要がなく、維持管理・ランニングコストを大幅縮減。
- ・小中接続の円滑化：すでに1校化されている俱知安中学校との連携や文化の一貫性が構築しやすい。

◆ デメリット・課題

- ・大規模化に伴う目配りの難しさ：個性のある児童への個別ケアや、いじめ・もめ事等の発見遅れの懸念。
- ・地域の繋がり・一体感の希薄化：各地域の小学校がなくなることによる地域コミュニティや防災拠点の弱体化。

◆ 1校案における特有の懸念事項

- ・不登校・不応児の逃げ場喪失：万一学校環境に馴染めなかった際、町内に別の選択肢（転校先）が存在しないリスク。
- ・オーバースペック化リスク：将来的にさらなる人口減が進んだ際、建設した新校舎が巨大すぎる施設として残る可能性。

【2校統合案】段階的統合でのリスク分散

◆ メリット（主な賛成理由）

- ・きめ細やかな指導環境：1学級20人規模など少人数学級の編成が可能となり、児童一人ひとりに目が届く。
- ・バックアップ・保険機能：不応児への別選択肢確保や、予期せぬ災害・事故時の代替施設としての安心感。
- ・地域バランスと通学利便性：通学距離の過度な遠大化を防ぎ、地域との連携や学童（児童クラブ）の維持が容易。
- ・段階的移行の柔軟性：中規模2校でスタートし、将来の推移を見て最終的に1校へ集約する段階的統合が可能。

◆ デメリット・課題

- ・数年後の再統合リスク：令和12年度以降の児童減により単学級化が進み、近々に再度の統廃合協議が必要に。
- ・二重投資と財政負担：2校分の改修費・維持管理費がかかり、減債や効率運用という経営面での不利益が大きい。

◆ 2校案における特有の懸念事項

- ・再統合による児童・保護者の負担増：数年～数十年後に再度統合を行うことになり、環境変化のストレスが複数回発生。
- ・学校間格差の発生：児童数や地域特性の偏りにより、学校間の教育環境やPTA負担感に差が出る恐れ。

【共通の重要課題・懸念事項と今後の要請（答申に向けた附帯条件）】

■ 通学・安全

交通安全と冬場対策：工事車両や観光客、除雪車等の交通量増加に対する安全確保、低学年の2km徒歩通学限界へのスクールバス拡充。

■ 合意形成

丁寧な説明と住民対話：PTAやコミュニティ・スクール（CS）、在校生・子育て世代に対する十分な情報提供と納得感のあるプロセス。

■ 学童・福祉

児童クラブ（学童）の整備：統合に伴う放課後児童クラブの容量不足解消、既存拠点の活用とスムーズな移動体制の確保。

■ 具体データ

ロードマップの明確化：単なる数字決めではなく、具体的な実施スケジュール、財政シミュレーション、他市町村先進事例の共有。

■ 教育ソフト

文化づくりと事前交流：統合決定から実施までの期間（スパン）に、事前交流行事などを通じて児童・教員の不安を払拭する計画の提示。

■ 手法

附帯条件の明記：多数決等で方向性を出す場合でも、懸念事項や配慮事項を答申書に厳格な「附帯条件」として添付すること。